

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第149号 (2023.12.24-2023.12.31)

- ◆ 参加者：雪の空(ゆきのかぞら)、古城エツ、もふもふ、何となく短歌
susou、池田突波、涼、片羽雲雀、西脇祥貴、温(ぬる)、石原とろ
き、元さん、しまねこくん、sails 守貞、輪井ゆう、西沢葉火、
りゅうせん、おかもとかも、水の眠り、佐竹紫円、かれん、う
つわ、alexander、crazylover、風ちひろ、ビックたん、神無(かみ)
ライオン版、Take、雷(らい)、みさきゆう、あやめ、池田突波、
花野玖、のはるん、まつりぺきん、蔭一郎、馬賊、霧雨魔理沙
たろりずむ、涼閑、かのん、宮坂恋哲、汐田大輝、石川聡、み
さきゆう、蝶々瑠璃、いずみ、靈夢、雷(らい)、丸山修平、エ
ミリー・メープル・ボーン、月硝子、Tonoko、カゲキ・ちゃけ
ぞう、半岬ちろ、ダリア20r、せば、比島アルト、うたたね凜
海馬、さー、しろとも、桂月、太代祐一、はゆき咲くら、小沢
史、奥かすみ、天やん、やーま、森砂季、wol、つて月のこと。
月波与生(七二名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

はじめて出会う扁桃腺と旅をした 海馬
白鳥が黒くなっても帰る家 片羽雲雀
鯛焼きの唇そつと触れてみる 片羽雲雀
酔客の列の間に間に聖歌あり 花野玖
オンドルの床にまた蛸の足跡 蔭一郎
白鳥の名字が山下しかいない しまねこくん
磯野家と同じ虚構の牡蠣家族 しまねこくん
タピオカを産みに小鳥は来るのかと しまねこくん
歳晩の青コーナーからジョー樋口 しまねこくん
摩天楼ロールシャツハのコピー機群 水の眠り

塹壕から聞こえる亀の輪唱 汐田大輝
見解の相違さキルキュフェットル山 いずみ
おっぱいに顔埋めたい年の暮れ 宮坂変哲
雪化粧キレイあなた既読無視 まつりぺきん
あのときの人質だった母です かれん

*

雨音のゾンビの如き大晦日 もふもふ
まだうつちやれるかも知れんとや大晦日 syusyu
予報通りに雨が降る大晦日 池田突破
餅つきの杵の重さで筋肉痛 涼
低気圧を寝物語る中島みゆき 西脇祥貴
鞆の無き人の手を抓りたし 8080 守宮
巨大迷路内探しまわるな恋 輪井ゆう
カブトムシ採集兵器 西沢葉火
系統樹タコまでいつてずり落ちた りゅうせん
何事もなかったようなすごい風 おかもとも
地元行き電車に乗りて夢を見る うつわ
あの年のあの日の夕陽忘れない alexandre jr.
ラストマン 伊那松島で 珈琲啜る ビッケたん
数え日の道幌馬車のように行く 雷
大人つてなるものぢやなくするものね あやめ
師走の夜雪の便りを風に聞く 涼閑
冬空が蒼にほころび高くなる かのん
ゆく年をコールドムーン知り尽くし 靈夢
猪口才の蛙天地を覆す 丸山修平
花か葉か曖昧な我が誕生花 月硝子
終わりだね夜が明ければおめでどう カゲキ・ちゃげぞう
月冴ゆ請求書の束払い終えた ダリア 220
腹減っておる冬星に手を伸ばし せば
微笑んで、何言うとんねん うたたね凧
出遅れサンタフライング歓喜の歌 しろとも

暖かい癖してイルミネーション忌 大代祐一
オルガンの蓋青痣まみれ 小沢史
厚化粧クリスマススイブの。パ。パの前 天やん

恋人以上友達未満桜餅 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

食えるものなら食ってみろ私には足りない天道虫の自信が
みさきゆう
茜色の帰路あと少し満月が出てくるまでと子供のように
みさきゆう
夜の弾くパイプオルガン天からの赦しにも似て手を合わす
夜 みさきゆう
赤い爪笑われたからグーにして今日のミッション君から逃
げる ヴたこ だよ
貴方が墮とした流れ星だよとても不本意な呪いをかける
半岬ちろ
ベランダでシヤボン玉とかふかしてる上京二年目・吉祥寺
にて 蝶々瑠璃
予防線は張らないようにしています自分の歌に失礼だから
たろりずむ
追憶と実家のコタツは同義語であつたかくって少しすっぱ
い 水の眠り
失禁の夢ばかり見るいつの日か現実になる序章のように
何となく短歌
エンディングノートに綴る丸文字を後半からは楷書に変え
た 古城エツ

*

雲霞み 今日は星が見えなくて、隣に君が今日もいなくて
雪の空 *SORA*

土管はペリカンは違いは何か「永劫回帰にしとけば」 石
原とつき

ありがとう繋がり会えた仲間たち太陽の場所また来年ね
元さん

口唇の形で音をたしかめる 私にテレパシーが使えたら
佐竹紫田

魂符リズム刻んで天仰ぐ太陽のよな冬風のよな *crazy*
lover

この道は君へ続いていくだろか果てなき夢の旅路の途中
凧ちひろ

ハンドクリームの香に酔う輝に滲みて痛むまま 神無
君以外期待したって無駄な事多分何処かで分かっていたね

Take
知らぬうち知ろうとせずに知ることに訃報欄のあなたの名
前 のはるん

俺の名を忘れてしまう時があるそれでも君のオムツを換え
る 馬勝

家事追われ孤独な日々の隙狙うホストや風のアングラの声
霧雨魔理沙

身体性短歌を詠めたらなどおもう特に首スジ寝違えた日は
石川聡

イーロンに買収された生地獄 陽気に踊る鬼やネトウヨ
エミリー・メープル・ボーン

グーグルで興味あるのは低評価冷たくあしらわれた人ばか
り *Tomoko*

探してるものが見つかればいいほうで残酷な陽はネジを回
して 比島アルト

それでもいい、それでもいいを繰り返して陳列棚からはみ出
したチュロス さー

先祖の先祖の顔をして子へ孫へきっちり伝えるDNA 桂月
RHUMさんツリーの魔法ありがとう 夫婦喧嘩の気まずい
朝も はゆき咲くら
曖昧な君が揺らしたイブの灯がつけた火傷に頬すり寄せる
奥かすみ

◆詩

小さな雨音 ポツポツと
代わりに泣いてくれてるの？
夕焼け空がキレイだったな
あと

何回見れるのだろう
おやすみ アタシ
おやすみ 世界。。(温(温))

◆作品評から

茜色の帰路あと少し満月が出てくるまでと子供のように
みさきゆう

く無事であってほしい。またみさきゆうさんの短歌が読
めますように。(やーま)

雪化粧キレイあなたの既読無視 まつりぺきん

くあなたのために着飾ったりお化粧したりキレイにして
きたのに、既読既読既読…という足跡で汚していくなんて
ひどい人！と怒ってるのかもしれない。

もしくは雪化粧は別れたあとの真っ白な光景かもしれない
ですね。キレイのキレイ、の部分で二人の赤い糸がぶつりと

切れた感じがします。(森砂季)

エンディングノートに綴る丸文字を後半からは楷書に変えた
古城エツ

〜ウツ、書く時に緊張する(ま)って月のこと。)

クリームを悪人が買う作話して 川合大祐

〜電話相談を受けていた頃、2時間聴き続けた話がすべて作話だったということが少なくなくて、そのせいか今でも人の話の2割くらいは作話だろうと思いつているのは私だ。(月波与生)

国歌斉唱レモンの切断面 以太

〜人は1年に国歌を何度歌うのだろう。レモンスライスを何度眺めるのだろう。どちらも0〜5回か。平均的日本人はレモンをあまり食べない。(月波与生)

寝る前に加湿器が吐くアフォリズム 蔭一郎

〜〈寝る前〉〈加湿器〉〈アフォリズム〉と立つ言葉が並んでもお互いが相殺し合って一句としてはそんなに面白くない。このへんが川柳の難しいところ。(月波与生)

侘助やすることリスト長いまま いずみ

〜映画『死ぬまでにしたい100のこと』は見終えた後にジワジワくる作品であった。以来「することリスト」の作成が流行っているが長くなるばかり。最近は100のことを書いて…(月波与生)

友の弾くパイプオルガン天からの赦しにも似て手を合わす
夜 みさきゆう

〜美しい歌ですね！ クリスマスの本来の意味が、言葉

の中に音楽のように流れていますね。お友達の演奏、つい手を合わせたくなるほど素晴らしいものだったのかな。
三原 短歌の歌も面白いと思いました！ 体調が良くないみたいですが、みさきゆうさんの短歌、好きです。今後も楽しみにしています。(やーま)